

学生のレジャー活動満足度を量る

著者	相良 博昭
雑誌名	研究論集
巻	84
ページ	189-202
発行年	2006-09
URL	http://doi.org/10.18956/00006252

学生のレジャー活動満足度を量る

相 良 博 昭

要 旨

1970年代より特にアメリカにおいて、レジャー研究が盛んに行われ始めた。現在においては、個々が持つレジャーに対する価値観、意識、満足は、個人のライフスタイルと密接な関連を持っていることが、多くの先行研究によって立証されている。

本研究は、学生のレジャー活動に対する満足・要求が、個々の持つライフスタイルからなる実際のレジャー活動を通して、満足しているか否かを知るために、ピアードとラグヘブが作成した「レジャー活動に対する満足度尺度」(Leisure Satisfaction Scale)を用いて、学生のレジャー活動満足度を調査した。また、過去の研究データとも比較検討を行った。

キーワード：レジャー活動満足度、ライフスタイル

1. はじめに

現在の日本におけるレジャー活動は、活動主体の性差や年齢差、その目的等により、多種多様な形態で日常的に行われている。

1970年代のアメリカにおいて、レジャー行動における動機、期待、満足に関する様々な研究が多く行われた^{2) 3) 4)}。リディック⁵⁾は、精神的健康は、レジャー活動を通して得られる満足に大きな影響を及ぼすとした。スニガスは、中高年から老年期におけるレジャー満足とライフスタイルの関係を検討し、またピアードとラグヘブ¹⁾は、レジャー満足を、「レジャー活動で得られたか、あるいは引き出された積極的認識、感情」と定義し、レジャー行動に対する満足度を発表した。

相良ら⁷⁾は、体育・スポーツを専攻する大学に所属する学生に対して、レジャー行動の満足度を調査し、検討を行った。性差においては、女性に満足度が高い傾向が見られ、レジャーを社会的相互作用いわゆる異性・同性との交友関係に利用している傾向が強いことが示された。またレジャーを運動不足解消、体力維持、向上といった身体的傾向としてとらえるより、ストレス解消、情緒の安定、リラックスといった精神的効果に高い満足を示す傾向にあった。これは調査対象者が体育・スポーツを専攻とする学生であり、その他の学生と比較した場合、学業・

クラブ活動・余暇の過ごし方に大きな違いが見られると予想されることから、さらなる検討を必要とした。

レジャー活動満足度を量るにあたり、レジャーの持つ意味あるいは概念をとらえておく必要があると考える。レジャーの定義付けについては諸説あるが、ジョフレ・デュマズディエ⁶⁾は、レジャーを「個人が職場や家庭、社会から課せられた義務から解放されたときに、休息、気晴らしあるいは利得とは無関係な知識能力の養成、自発的な社会的参加、自由な創造力の発揮のために、まったく随意に行う活動の総体である。」と定義した。日本においては、余暇開発センター⁹⁾が、レジャー概念を「第1に、生活全体の“豊かさ”や“ゆとり”という側面でもとらえる必要があり、第2に“生活のゆとり”のなかから、はぐくまれていく創造的な活動の広がりという視点で、概念設計が行われていくべき」と定義した。

これらより、レジャーがいわゆる自由時間、余暇というこれまでの時間や活動概念を主とした概念規定されていたことから、個々が持つライフスタイルや認識、感情、精神状態を含めた総合概念としてレジャーを定義する必要があると考える。

近年、日本においても個々の持つライフスタイルと関連付けたレジャー満足に関する研究は発表されているが、年代別、性別、ライフスタイルの違いなど、あらゆる観点からのアプローチが今後にも必要ではないかと考える。また、時代の変遷による対象者の意識変化を素早く捉え、今後のレジャー満足に関する研究だけでなく、ライフスタイルとの強い関連付けから、ストレス解消、生きがい、あるいはより豊かな生活(QOL)の創造などに、役立てる必要があると考える。

そこで本研究では、引き続き学生を調査対象に選び、一般学生のライフスタイルから見たレジャー活動の満足度を量り、対象者の満足度の傾向をとらえ、さらに過去の調査結果に基づき、調査対象者の違いによる異同検討することを目的とする。

2. 先行研究における調査方法及び結果

1) 調査対象 T 大学体育学部学生

調査対象者数：1103名、回収数：814名、有効回答数796名（男子603、女子193名）

2) 調査期間：1993年12月10日～12月16日

3) 調査方法：調査方法は、集合調査法を用いた。本調査は、ピアードとラゲブによって作成された「レジャー活動に対する満足度調査尺度」を用いて、調査を行った。調査結果は、表1、2に示した。表1は、調査対象者を所属別、性別、学年別に分類した。表2は、調査対象者全体の平均値と各所属別の平均値及びF値を示した。

表1 先行研究における調査対象者

所 属		体育学科		社会体育学科		武道学科		全体
性 別		男子	女子	男子	女子	男子	女子	
学 年	1 年	130	44	52	30	27	1	284
	2 年	137	26	67	32	23	9	294
	3 年	105	27	32	16	30	8	218
全 体		372	97	151	78	80	18	796

表2 先行研究における所属別 LSS 記述統計量

	体育学科	社会体育学科	武道学科	全体平均値	F 値
Q 1	3.22	3.40	2.76	3.21	8.62**
Q 2	3.80	3.81	3.31	3.74	8.09**
Q 3	3.59	3.58	2.97	3.51	11.43**
Q 4	2.35	2.27	2.30	2.32	0.38
Q 5	2.97	2.92	2.64	2.92	4.66**
Q 6	3.06	3.15	2.78	3.05	4.25*
Q 7	2.85	2.76	2.52	2.79	3.97*
Q 8	1.66	1.06	1.80	1.66	1.46
Q 9	3.72	3.69	3.37	3.67	4.21*
Q10	2.61	2.77	2.59	2.65	2.19
Q11	2.28	2.22	2.15	2.25	0.69
Q12	2.68	2.57	2.56	2.63	1.01
Q13	3.57	3.51	3.24	3.52	3.78*
Q14	3.65	3.60	3.35	3.60	2.95
Q15	3.14	3.10	2.86	3.10	2.79
Q16	2.65	2.54	2.41	2.59	2.30
Q17	3.19	3.15	2.87	3.14	3.75*
Q18	3.35	3.25	3.02	3.28	4.25*
Q19	3.60	3.58	3.09	3.53	10.25**
Q20	3.34	3.42	2.98	3.32	5.74**
Q21	3.33	3.25	3.00	3.27	3.99*
Q22	3.19	3.12	3.06	3.15	0.73
Q23	3.04	3.00	2.90	3.01	0.67

相 良 博 昭

Q24	2.92	3-05	2.72	2.93	2.66
Q25	2.98	3.03	2.86	2.98	0.96
Q26	3.08	3.09	2.92	3.07	1.01
Q27	2.94	2.90	2.77	2.91	0.99
Q28	3.48	3.50	3.27	3.46	1.86
Q29	3.74	3.72	3.38	3.49	4.32*
Q30	3.79	3.75	3.36	3.73	7.13**
Q31	3.36	3.25	3.08	3.29	2.73
Q32	3.55	3.37	3.10	3.44	7.49**
Q33	3.19	3.05	2.94	3.12	2.12
Q34	2.50	2.56	2.71	2.54	1.42
Q35	3.30	3.30	2.98	3.26	2.97
Q36	3.13	3.16	2.68	3.08	7.08**
Q37	3.67	3.56	3.30	3.59	4.67**
Q38	3.84	3.70	3.39	3.74	6.98**
Q39	3.52	3.45	3.14	3.45	5.34**
Q40	3.65	3.48	3.22	3.54	5.94**
Q41	2.99	2.78	2.87	2.91	2.33
Q42	2.78	2.64	2.59	2.72	1.67
Q43	2.85	2.76	2.74	2.81	0.71
Q44	3.01	3.02	2.91	3.00	0.31
Q45	2.50	2.37	2.51	2.46	0.85
Q46	2.66	2.56	2.60	2.62	0.46
Q47	3.57	3.56	3.16	3.52	5.63**
Q48	3.68	3.57	3.15	3.58	9.28**
Q49	3.40	3.45	3.23	3.39	1.26
Q50	2.85	2.94	2.64	2.85	2.74
Q51	3.68	3.75	3.18	3.63	8.88**

*P<0.05, **P<0.01

3. 本調査方法

1) 調査対象

調査対象者は、K 大学学生、体育・スポーツを専攻としない一般学生221名とした。

対象者の性別、所属別（大学あるいは短期大学）データは、表3「調査対象者性別、所属別集計」の通りである。

表3 調査対象者性別、所属別集計

		所 属		合 計
		大 学	短 大	
性 別	男	21名	14名	35名 (16.06%)
	女	67名	116名	183名 (83.94%)
合 計		88名 (40.37%)	130名 (59.63%)	218名 (100%)

2) 調査期間

2002年及び2003年の2年間、全て12月第1週日に調査を実施した。

3) 調査方法

集合調査法を用いて実施し、終了後回収した。調査対象者の全員（221名）より調査票を回収し、無回答や回答漏れを除いた結果、218名より有効な回答を得ることができた（有効回答率98.64%）。

4) 調査内容

レジャー活動をめぐる満足・要求が、個々の持つライフスタイルからなる実際のレジャー活動を通して、充足しているか否かを知るために、ビアードとラゲブによって作成された「レジャー活動に対する満足度尺度」(Leisure Satisfaction Scale: 以下 LSS と略す)を日本語にした調査票を用いて、調査を行った。LSS は、51項目からなり、「1. 全くあてはまらない」「2. 少し当てはまらない」「3. どちらとも言えない」「4. 少し当てはまる」「5. かなりあてはまる」までの5段階で回答するよう指示した。

5) 調査分析方法

- (1) 本調査における LSS の分析、検討
- (2) 過去の調査結果との異同

4. 結果と考察

1) 対象者全体の LSS

調査対象者の LSS は、表 4 「対象者の LSS 記述統計量」に示した通り、質問項目全51項目の平均値と標準偏差を算出した。

表 4 対象者の LSS 記述統計量

	度 数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q 1				4.128	.932
Q 2				4.601	.645
Q 3				4.583	.709
Q 4				1.881	1.040
Q 5				3.491	1.035
Q 6				3.950	1.053
Q 7				3.459	1.116
Q 8				1.376	.789
Q 9				4.220	.899
Q10				2.867	1.182
Q11				1.982	1.152
Q12				2.661	1.197
Q13				4.229	.844
Q14				4.321	.767
Q15				3.628	1.084
Q16				2.367	1.113
Q17				3.954	.879
Q18				3.899	1.038
Q19				4.248	.902
Q20				4.252	.903
Q21				3.940	1.034
Q22				3.830	1.137
Q23				3.468	1.184
Q24				2.963	1.244
Q25	218	1.00	5.00	3.532	1.128
Q26				3.596	1.141

学生のレジャー活動満足度を量る

Q27				3.367	1.075
Q28				4.201	.935
Q29				4.179	1.002
Q30				4.317	.812
Q31				3.807	1.034
Q32				3.679	1.077
Q33				4.115	1.074
Q34				2.771	1.145
Q35				4.000	.916
Q36				3.725	1.054
Q37				4.115	.965
Q38				4.468	.744
Q39				3.748	1.058
Q40				3.798	1.170
Q41				2.762	1.273
Q42				3.390	1.267
Q43				2.858	1.227
Q44				3.995	1.027
Q45				3.280	1.259
Q46				3.665	1.249
Q47				3.812	1.076
Q48				4.051	.942
Q49				3.729	1.005
Q50				2.601	1.087
Q51				4.368	.850

高い平均値を示したのは高い順に、Q 2 「私にとってレジャー活動は非常におもしろい。」(4.601±.645)、Q 3 「私はレジャー活動を楽しんでいる。」(4.583±.709)、Q 3 8 「私のレジャー活動は、ストレス解消になる。」(4.468±.744)、Q51 「私がレジャー活動を行っている場は、私を楽しませてくれる。」(4.368±.850)、Q14 「いくつかの私のレジャー活動は、より広い経験を私に与える。」(4.321±.767)、Q30 「私のレジャー活動を通して、出会った人たちは友好的である。」(4.317±.812)であった。逆に低い値を示したのは低い順に、Q 8 「私はレジャー活動を時間の無駄だと思う。」(1.376±.789)、Q 4 「私は自由時間を楽しめない。」(1.881±1.040)、Q11 「私は自由時間に寂しさを感じる。」(1.982±1.152)であった。これ

は、相良ら⁷⁾が行った調査と比較してみると、高い平均値を示す項目は同様に高く、低い平均値を示す項目についても同様に低い傾向が見られた。しかしその数値は、本調査結果と比較して、低い傾向が見られた。

高い平均値を示した項目は、どれもレジャー活動に対して高い満足度を示している項目であり、また低い平均値を示した項目は、レジャー活動を否定的にとらえている項目であることから、レジャー満足度は高いことがわかった。

2) 性別の LSS の比較

LSS の平均値を、性別に比較した。表 5 「性別の LSS 平均値の比較」は、対象者の性別に比較し、その t 値を示した。

表 5 性別の LSS 平均値の比較

Q	男子 n=35		女子 n=183		合 計 n=218		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
Q 1	4.343	.938	4.087	.928	4.128	.932	1.480
Q 2	4.829	.453	4.557	.668	4.601	.645	2.305*
Q 3	4.771	.490	4.546	.738	4.583	.709	1.646
Q 4	2.000	1.029	1.858	1.044	1.881	1.040	1.092
Q 5	3.800	.961	3.432	1.040	3.491	1.035	1.937
Q 6	4.171	.891	3.907	1.078	3.950	1.053	1.286
Q 7	3.743	1.221	3.404	1.090	3.459	1.116	1.695
Q 8	1.543	1.172	1.344	.693	1.376	.789	1.429
Q 9	4.314	.796	4.202	.918	4.220	.899	0.671
Q10	2.514	1.222	2.934	1.165	2.867	1.182	-3.818***
Q11	2.257	1.314	1.929	1.115	1.982	1.152	1.533
Q12	2.829	1.294	2.628	1.178	2.661	1.197	0.914
Q13	4.114	1.022	4.251	.807	4.229	.844	0.867
Q14	4.486	.612	4.290	.790	4.321	.767	1.400
Q15	4.029	.785	3.552	1.117	3.628	1.084	2.409*
Q16	2.629	1.308	2.317	1.068	2.367	1.113	1.522
Q17	4.000	.939	3.945	.869	3.954	.879	0.335
Q18	3.771	1.165	3.924	1.013	3.899	1.038	-0.797
Q19	4.286	1.017	4.240	.882	4.248	.902	0.275

学生のレジャー活動満足度を量る

Q20	4.000	1.163	4.301	.915	4.252	.903	-1.682
Q21	4.171	.822	3.896	1.067	3.940	1.034	1.427
Q22	3.914	1.147	3.814	1.138	3.830	1.137	0.472
Q23	3.543	1.221	3.454	1.180	3.468	1.184	0.406
Q24	3.057	1.371	2.945	1.221	2.963	1.244	0.487
Q25	3.514	1.147	3.536	1.128	3.532	1.128	-0.105
Q26	3.829	1.098	3.552	1.147	3.596	1.141	-1.307
Q27	3.514	1.172	3.339	1.056	3.367	1.075	0.875
Q28	4.086	1.147	4.230	.891	4.201	.935	-0.832
Q29	4.000	1.138	4.213	.974	4.179	1.002	-1.158
Q30	4.143	.879	4.350	.797	4.317	.812	-1.500
Q31	3.657	1.136	3.836	1.014	3.807	1.034	-0.937
Q32	3.800	1.079	3.656	1.078	3.679	1.077	0.720
Q33	4.086	1.011	4.120	1.088	4.115	1.074	0.171
Q34	2.829	1.200	2.760	1.137	2.771	1.145	0.324
Q35	3.914	1.040	4.016	.892	4.000	.916	-0.600
Q36	3.657	1.162	3.738	1.036	3.725	1.054	-0.413
Q37	4.086	.781	4.120	.998	4.115	.965	-0.190
Q38	4.514	.712	4.459	.754	4.468	.744	0.399
Q39	3.771	1.060	3.743	1.061	3.748	1.058	0.144
Q40	3.914	1.292	3.776	1.148	3.798	1.170	0.636
Q41	3.200	1.368	2.678	1.240	2.762	1.273	2.231*
Q42	3.514	1.314	3.367	1.259	3.390	1.267	0.626
Q43	2.686	1.301	2.891	1.213	2.858	1.227	0.903
Q44	4.086	1.067	3.980	1.022	3.995	1.027	0.555
Q45	3.029	1.382	3.328	1.232	3.280	1.259	-1.283
Q46	3.886	1.183	3.623	1.260	3.665	1.249	1.139
Q47	3.514	1.314	3.869	1.019	3.812	1.076	-1.784
Q48	3.886	.932	4.082	.943	4.051	.942	-1.126
Q49	3.600	1.143	3.754	.978	3.729	1.005	-0.828
Q50	2.743	1.380	2.574	1.024	2.601	1.087	0.837
Q51	4.486	1.040	4.344	.810	4.368	.850	0.899

*:p<0.05, ***:p<0.001

性別において高い平均値を示した項目の上位3項目は、男女とも同じ項目があげられた。最も高いのは、Q2「私にとってレジャー活動は非常におもしろい。」(男子:4.829±.453、女子4.557±.668)、次にQ3「私はレジャー活動を楽しんでいる。」(男子:4.771±.490、女子4.546±.738)、そして3番目は、Q38「私のレジャー活動は、ストレス解消になる。」(男子:4.514±.712、女子4.459±.754)であった。性別において高い平均値を示した上位3項目は、対象者全体の平均値の上位3項目と同じ順位であった。

低い平均値を示した項目の上位3項目についても、男女で同様の項目があげられた。低い数値が示されたのは、Q8「私はレジャー活動を時間の無駄だと思う。」(男子1.543±1.172、女子1.344±.693)、次にQ4「私は自由時間を楽しめない。」(男子2.000±1.029、女子1.858±1.044)、3番目は、Q11「私は自由時間に寂しさを感じる。」(男子2.257±1.314、女子1.929±1.115)であった。またこれは、対象者全体のLSS結果の順位と同様であった。高い平均値を示した項目同様に、低い平均値を示した上位3項目についても、対象者全体のLSS上位3項目と同じ順位であった。

高い平均値を示した3項目は、男女で比較したとき、いずれの項目も男子の数値が高く、逆に、低い平均値を示した3項目は、男女で比較したとき、いずれの項目も女子の数値が低かった。

これより、男子は女子と比較して、より高いレジャー満足度を有していることがわかった。女子については男子と比較して、低い結果が得られたが、性別のLSSにおいて低い平均値を示した項目は、Q4、8、11のようにレジャー活動に否定的な質問項目が多く含まれていた。このことから、男子と比較して低い傾向が見られたが、レジャー活動を否定的にとらえてはいないと推察した。

次に男女差から見て、高い数値を示したのは、男子で51項目中35項目、女子は16項目であり、男子の数値が高い項目が多く見られた。

男女の平均値に対してt検定を実施し、有意な差が認められたのは、Q2「私にとってレジャー活動は非常におもしろい。」(t値2.305)、Q10「私のレジャー活動選択は、情報不足によって限られている。」(t値-3.818)、Q15「私は精神的エネルギーを補ってくれるレジャー活動を行っている。」(t値2.409)、Q41「私のレジャー活動は、肉体的挑戦である。」(t値2.231)の4項目であった。これら4項目中、Q10のみ女子の平均値が高く、残り3項目については、男子の平均値が高かった。女子に高い有意差が見られたQ10は、レジャー満足度に対して否定的な項目である。また男子においては有意な差は見られなかったが、Q3、5、7についても比較的高いt値が見られた。以上のことから、相良らの先行研究と比較して高い満足度を示しているが、男女で比較した場合、男子により高いレジャー満足度があると推察される。

3) 所属別の LSS の比較

対象者の所属別（大学あるいは短大）比較は、表6「所属別の LSS 平均値の比較」の通りである。性別と同様、所属別の平均値とその t 値を示した。

表6 所属別の LSS 平均値の比較

Q	大学 n=88		短大 n=130		合計 n=218		t 値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
Q 1	4.171	1.020	4.100	.870	4.128	.932	0.550
Q 2	4.580	.673	4.615	.627	4.601	.645	0.393
Q 3	4.546	.801	4.608	.641	4.583	.709	-0.633
Q 4	1.886	1.011	1.877	1.064	1.881	1.040	0.063
Q 5	3.421	1.111	3.539	.982	3.491	1.035	-0.825
Q 6	4.011	1.077	3.908	1.038	3.950	1.053	0.705
Q 7	3.443	1.153	3.469	1.094	3.459	1.116	-0.168
Q 8	1.432	.894	1.339	.839	1.376	.789	0.782
Q 9	4.250	.986	4.200	1.199	4.220	.899	0.323
Q10	2.977	1.154	2.792	1.168	2.867	1.182	1.149
Q11	2.000	1.135	1.970	1.176	1.982	1.152	0.186
Q12	2.705	1.233	2.631	1.178	2.661	1.197	0.446
Q13	4.250	.861	4.215	.835	4.229	.844	0.299
Q14	4.318	.810	4.323	.739	4.321	.767	-0.047
Q15	3.557	1.173	3.677	1.021	3.628	1.084	-0.800
Q16	2.193	1.038	2.485	1.150	2.367	1.113	-1.908
Q17	3.977	.884	3.939	.878	3.954	.879	0.311
Q18	3.784	1.129	3.977	.969	3.899	1.038	-1.340
Q19	4.193	.957	4.285	.865	4.248	.902	-0.736
Q20	4.102	1.104	4.359	.843	4.252	.903	-1.947
Q21	3.943	1.108	3.939	.986	3.940	1.034	0.028
Q22	3.625	1.271	3.969	1.019	3.830	1.137	2.205*
Q23	3.386	1.308	3.523	1.094	3.468	1.184	-0.835
Q24	2.648	1.269	3.177	1.184	2.963	1.244	-3.130**
Q25	3.367	1.261	3.646	1.018	3.532	1.128	-1.788
Q26	3.693	1.197	3.531	1.101	3.596	1.141	1.025

Q27	3.250	1.225	3.446	.957	3.367	1.075	-1.315
Q28	4.261	.928	4.169	.941	4.201	.935	0.708
Q29	4.102	1.029	4.231	.985	4.179	1.002	-0.928
Q30	4.296	.860	4.331	.781	4.317	.812	-0.310
Q31	3.796	1.063	3.815	1.018	3.807	1.034	-0.132
Q32	3.705	1.166	3.662	1.016	3.679	1.077	0.289
Q33	4.068	1.070	4.146	1.079	4.115	1.074	-0.523
Q34	2.602	1.109	2.885	1.159	2.771	1.145	-1.791
Q35	4.046	1.005	3.969	.853	4.000	.916	0.606
Q36	3.693	1.054	3.746	1.059	3.725	1.054	-0.363
Q37	4.022	1.039	4.177	.910	4.115	.965	-1.157
Q38	4.500	.758	4.446	.737	4.468	.744	0.574
Q39	3.546	1.082	3.885	1.024	3.748	1.058	-2.338*
Q40	3.659	1.231	3.892	1.122	3.798	1.170	-1.447
Q41	2.716	1.347	2.792	1.224	2.762	1.273	-0.429
Q42	3.171	1.366	3.539	1.176	3.390	1.267	-2.115*
Q43	2.648	1.213	3.000	1.220	2.858	1.227	-2.083*
Q44	3.932	1.048	4.039	1.015	3.995	1.027	-0.748
Q45	3.148	1.309	3.369	1.221	3.280	1.259	-1.270
Q46	3.511	1.212	3.769	1.255	3.665	1.249	-1.483
Q47	3.693	1.138	3.892	1.029	3.812	1.076	-1.336
Q48	4.057	.998	4.046	.905	4.051	.942	0.084
Q49	3.739	1.045	3.723	.981	3.729	1.005	0.115
Q50	2.478	1.154	2.685	1.035	2.601	1.087	-1.380
Q51	4.386	.863	4.354	.843	4.368	.850	0.271

*:p<0.05, **:p<0.01

所属別に高い平均値を示した項目の上位3項目は、性別と同様、大学・短大ともに同じ項目があげられた。最も高いのは、Q2「私にとってレジャー活動は非常におもしろい。」(大学：4.580±.673、短大4.615±.627)、次にQ3「私はレジャー活動を楽しんでいる。」(大学：4.546±.801、短大4.608±.641)、そして3番目は、Q38「私のレジャー活動は、ストレス解消になる。」(大学：4.500±.758、短大4.446±.737)であった。所属別にみて高い平均値を示した上位3項目は、対象全体及び性別とも同様の順位であった。

低い平均値を示した項目の上位3項目についても、同様の項目があげられた。低い数値が示されたのは、Q8「私はレジャー活動を時間の無駄だと思う。」(大学 $1.432 \pm .894$ 、短大 $1.399 \pm .839$)、次にQ4「私は自由時間を楽しめない。」(大学 1.886 ± 1.011 、短大 1.877 ± 1.064)、3番目は、Q11「私は自由時間に寂しさを感じる。」(大学 2.000 ± 1.135 、短大 1.970 ± 1.176)であった。低い平均値を示した上位3項目についても、対象全体及び性別において同様の順位で推移した。

所属別に見て高い数値を示している項目数は、51項目中、大学21項目、短大が30項目と、短大に多かった。また、平均値の高かったQ2, 3についても短大の数値が大学よりも高く、逆にレジャーに否定的な平均値の低かったQ4, 8, 11については、大学よりも低い値を示していた。

次に、所属別における平均値のt検定を実施したところ、Q22「私のレジャー活動は、他人について学ばせてくれる。」(t値 2.305)、Q24「私のレジャー活動は、自然環境について学ばせてくれる。」(t値 -3.130)、Q39「私のレジャー活動は、情緒の安定をもたらす。」(t値 -2.338)、Q42「私は体力向上のために、レジャー活動を行っている。」(t値 -2.115)、Q43「私は疲れた体をいやすために、レジャー活動を行っている。」(t値 -2.083)の5つの項目において有意な差が見られた。5つの有意差が見られた項目のうち、Q24, 39, 42, 43の4つが短大において高い数値を示している。このことから、所属別のレジャー満足度についても相良らの結果と比較して、多くの項目で本調査における数値が高く見られた。また大学と短大を比較し、短大のレジャー活動満足度の高さが明確となった。また、有意な差が見られた項目が、情緒の安定、体力向上、疲れた体を癒すとすることから、レジャー満足度の高い要因に、身体的・精神的要因が大きく関与していることがわかった。

5. おわりに

本研究は、学生のレジャー活動の満足度を調査し、レジャー活動に対してどのような満足を得ているかを明らかにすることを目的とした。

調査結果より、先行研究である相良らと比較しても、全体的に高い数値が示され、またレジャー満足度に否定的な項目については、先行研究と比較していずれも低い数値であったことから、レジャー満足度の高さが明らかとなった。

性別にみた比較においては、女子よりも男子に満足度の高さが見られた。しかし、調査対象者数が、女子に比べ男子の数が明らかに少なかったことから、更なる精査も必要と考える。

所属別にみた比較については、全体及び性別の平均値と比較しても、ほぼ同様の傾向が見られた。また短大において高い平均値を示す項目が30項目見られ、有意差が見られた項目が多か

ったことから、大学よりも短大のレジャー満足度が高いことがわかった。

今後の研究課題としては、項目間の相関、クロス集計等を行い、さらなる研究データの精査が必要と考える。また、レジャー満足度のライフスタイルとの密接な関連の観点から、身体的・精神的健康状況、運動習慣、余暇時間等のレジャー活動を形成する上で、必要不可欠なカテゴリーとの比較を行う必要があると考える。

引用・参考文献

- 1) Beard Jacob G., and Mounir G. Ragheb, "Measuring Leisure Satisfaction," *Journal of Leisure Reserch*: 10-1.1986. pp20-33.
- 2) Francken, Dick A., and W. Fred van Roajii, "Satisfaction with Leisure Time Activitirs," *Journal of Leisure Research*: 12-4.1982.p338.
- 3) Iso-Ahola, Seppo, *The Social Psychology of Leisure abd Recreation.*; Broun Company Publishers 1980.
- 4) Kaniers, Michael A., and William J. Montelpare, "Enabling Healthy life through Leisure," *Journal of Physical Education, Recreation and Dance*. April issue. 1994. p26, 27.
- 5) Riddick, Carol Cutler, "Leisure Satisfaction Precursors," *Journal of Leisure Reserch*: 18-4, 1986. pp259-265.
- 6) ジョフレ・デュマズディエ、中島巖訳、余暇文明に向かって：東京創元社。p19。(1972)
- 7) 相良博昭、周延稿、黒川稚子、吉川政夫、大堀孝雄 「大学生のレジャー活動における満足度調査 (I)」『日本体育学会第45回大会 体育社会学専門分科会発表論文集』2号、1994. pp3T01-1-6.
- 8) 高橋和敏 『レクリエーション概論』不昧堂、1991.
- 9) 財団法人余暇開発センター編集・発行「余暇時代における産業活動の社会的位置づけ」1973. pp18-20.

(さがら・ひろあき 短期大学部助教授)